



## 6/24 (金) てだこまつり、 ポスターデザイン

7月23、24日に開催された「第34回浦添てだこまつり」のポスターデザイン提供への感謝状贈呈式が行われました。市では、ポスターデザインを毎年浦添工業高校デザイン科に依頼しており、今年は同校で製作した20点の作品から最優秀賞に東みづきさん(3年)、優秀賞に比嘉菜津美さん(3年)、佐久田優さん(3年)が選ばれました。ポスターに採用された最優秀賞の東さんは、「旗頭は迫力があり印象に残っていた。エイサーはてだこまつりで踊ったことがあるので描きたかった」と話しました。



## 6/18 (土) 福島県の復興を願って

被災地である福島県を支援するため「がんばっぺ福島ー浦添市から愛を贈ろうー」が市役所前広場で開催されました。このイベントは「ウチナー・福島交流実行委員会」主催で行われ、福島県産の野菜やお米の即売会をはじめ、与那国馬の乗馬体験やミニライブなどにぎわいました。福島県出身である同委員会の鈴木伸章会長は「浦添市は、少年の船などで福島県と交流があり県内で一番関わりがあると思う。今後も県内の各市町村をまわり続けながら活動を広めたい」と述べました。集まった募金など約25万円は6月26日に鈴木会長らによって直接福島県に届けられました。



## 6/22 (水) 男女共に支え合う 社会を目指して

男女共同参画社会の実現に向けて広く理解を深めようと、「男女共同参画週間」のオープニングセレモニーが市役所1階ロビーで開催されました。今年は、「チャンスをつかち、未来を拓こう」をキャッチフレーズに「クリスタルコールおきなわ」による歌やパネル展などが行われました。また、童話「桃太郎」をアレンジして創作した女性団体連絡協議会による朗読では、「なぜ女性の仕事と決めつけ川で洗濯ばかりさせるのか？女だからという考え方はおかしい」と問いかけ、男女共同参画にちなんだユニークなストーリー展開で会場を沸かせました。



## 6/30 (木) 平和について考える

本市の平和行政の柱である「平和都市宣言」、「核兵器廃絶宣言」の精神を高め、未来を担う中学生に戦争の悲惨さや平和の尊さを学んでもらおうと、浦添市中学生平和交流事業「平和講演会」が浦添中学校体育館で行われました。講師を務めた仲間孝蔵さん(うらおそい歴史ガイド友の会)は、人間が人間でなくなる戦争の恐ろしさや悲惨さを、激戦地となった浦添戦の状況を交えながら説明しました。また、「21世紀は共生の時代、世界が協力し合っていくために足元から勉強して世界に向けて発信できる人になって欲しい」と、メッセージを送りました。



## 7/13~7/15 (水) (金) 浦添の地場産品、大集合！

浦添市の地場産品を展示販売するとともに広くPRし、地場産業の育成と活性化に寄与しようと、毎年恒例となった「浦添の物産と観光展」が市役所1階ロビーおよび中庭で開催されました。

51社の多種多様な出店により、大いににぎわいをみせた同観光物産展では市の養蚕事業から浦添の新たな特産品開発として注目される桑を使ったお茶や菓子の試食・販売や、本市との友好都市提携30周年を記念した愛知県蒲郡市の観光物産展示、震災復興支援としてウチナー・福島交流実行委員会による福島県の特産物販売なども行われました。来場者からは「毎年足を運んでいる。浦添の商品がいろいろ有り、楽しい」などの声がありました。



## 6/10 (金) 元気よく朝のあいさつ！

「6.12愛の声かけ一斉早朝コール作戦」が市内各所で行なわれました。今年は12日が日曜日に当たるため、10日に行なわれました。市では、平成13年に「愛の声かけ運動」をスタートさせ、平成15年には青少年が思いやりと優しさを持って、心身ともに明るくたくましく成長することを願い、「愛の声かけ てだこの宣言」を行なっています。

安波茶交差点では、浦添工業高校の生徒および行政や関係団体役員らが街頭に立ち、登校する子ども達に挨拶し、声をかけられた子ども達も元気よく挨拶を交わしていました。



## 6/2 (木) 障がい者 自立支援のために

「浦添市障害者自立支援協議会」の委員委嘱状交付式が市役所で行われました。この協議会は、障害者自立支援法に規定する各種事業の適切な運営および地域の障がい福祉に関連するシステム作りなどを協議することを目的としており、障がい者支援体制の強化に努めます。今回は、学識経験者、医師、福祉事業所の代表、行政機関の職員など15人が委嘱状を手渡されました。副市長は、「障がいのある方と健常者が一緒になって良い生活を送れるよう、様々な立場の委員の方から意見を聞き、すばらしい福祉のまちをつくりあげていきたい」と、述べました。